



明るい漁村



CONTENTS

漁業協同組合JFしまね第6回通常総代会開催	2
JFしまね会長あいさつ	3
平成22年度決算状況	4
平成23年度事業計画	5～6
東日本大震災復興支援イベント開催 ～マグロでTUNAがる心と心～	7

JFしまねグループ	
東北地方太平洋沖地震被害支援対策	8～9
浜の声～安達一守さん(JFしまね恵曇支所所属)	10～11
浜の一品 ～ぼべ御飯～	12
浜の出来事	12

第6回

JFしまね
漁業協同組合

通常総代会



溝口善兵衛 島根県知事



島田三郎 島根県議会副議長



中島謙二 島根県議会
水産振興議員連盟幹事長

去る6月18日(土)午前10時よりホテルサンラポールむらこも(松江市殿町)で出席総代14名(内本人出席11名、委任状による出席4名、書面による出席2名)により第6回通常総代会が開催された。

総代会では冒頭に岸 宏JFしまね会長が挨拶し、引続き来賓の溝口善兵衛島根県知事、島田三郎島根県議会副議長(議長代読)、中島謙二島根県議会水産振興議員連盟幹事長(会長代読)から祝辞を戴いた。



浜田地区 西藤壽一 議長

続いて議事に移り、議長に浜田地区・西藤壽一総代が選任され、以下の通り審議がなされた。

□第1号議案 平成22年度事業報告及び剰余金処分案に関する件

□第2号議案 平成23年度事業計画に関する件

□第3号議案 平成23年度における借入金 の 最 高 限 度 に 関 する件

□第4号議案 平成23年度における理事及び監事の報酬に関する件

□第5号議案 定款の一部改正に関する件

□第6号議案 規約の一部改正に関する件

□第7号議案 平成23年度賦課金の徴収に関する件

□第8号議案 出資配当金を増資に充当する件

全8議案とも原案通り承認された後、特別決議として、「わが国水産業・漁村の復興と原子力発電所の安全性を求める件」及び「竹島領土権確立に関する件」が提案され、満場一致で承認され総代会は終了した。

代表理事会長

岸 宏



本日、漁業協同組合JFししまね第六回通常総代会をご案内致しましたところ、各地区から総代の皆様のご出席を頂くと共に公務ご多繁の央、溝口島根県知事様・島根県議会議長様を初め、多数のご来賓のご出席を賜り、盛大に開催できまます事を先ずもって厚くお礼申し上げます。

さて、先般の東日本大震災によって東北各県においては、多数の尊い人命が失われると共に海岸部を中心に、甚大な被害が発生したところであり、お亡くなりになられた方々のご冥福を衷心よりお

祈りしますと共に、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げる次第であります。

特に今回は、津波によって日本最大の水産拠点である岩手・宮城・福島3県の漁業・漁村は壊滅的被害を受けると共に、東京電力福島第一原子力発電所事故問題等日本の漁業はかつてない厳しい試練に直面しております。

私共、全国JFグループにおいては、発災を受け全漁連を中心に支援対策本部を設置し、被災漁業者の支援と被災地の復旧・復興及び原子力発電所事故問題に取組んできたところであり、今後も引続き総力を挙げて対応して参る事となっております。

このような中で、本県JFグループにおいても、支援対策本部を設置のうえ、救援物資を届ける一方で義援金の募金を漁業者皆様にお願ひ致しましたところ、総額7000万円の募金が集り、全漁

連を通じ6000万円を被災漁業者皆様に、島根県を通じ1000万円を一般被災者皆様にお届けした次第であります。

海を生業の場とする仲間である被災漁業者皆様の一日も早い再起と、被災地の早期復興を願う本県漁業者各位の熱い思いによって多額な義援金を贈る事が出来ました事に心から感謝し厚くお礼申し上げます。

平成二十二年度の本県漁業は海況不順と経済不況による慢性的魚価安の中で、漁獲高は十二万六千トン・一八三億円と、昨年並みの実績となりました。

決算の結果は、後程詳細ご報告申し上げますが、所定の諸引当金計上後、当期剰余金は一億七千万円余となり、法定積立金・特別積立金を積んだ後の剰余金については、出資配当・事業分量配当金をもって組合員に還元することと致したところであります。

これ偏に、組合員各位のご協力・ご理解の賜であり心から感謝申し上げますと共に、関係各位のご支援に深く謝意を表する次第であります。

次に、平成二十三年度の運営に当りましては、合併以来の五年間を振り返り、これまでの成果と反省

を真摯に踏まえ、二十一年度から三カ年で推進中の「組織の融合一体化」「魚食普及・魚価向上と流通経費縮減」「経営財務基盤の確立強化」を三本柱に、目標である「ゆるぎない信念をもってたゆまざる努力」を傾注し乍ら、JFししまねの将来展望を確かなものにする事が肝要と考えますので組合員各位の一層のご協力をお願いするものであります。

終わりになりましたが、島根県知事様並びに県議会の先生方には日頃より本県水産業の振興に深いご理解を賜り、昨年は全国初の原油価格支援単制度の創設、豪雪被害支援、目下取組んでいます大社市場整備・大田統合市場建設支援、更に浜田漁港流通機能整備等に加え、一般の被災漁業者受入支援事業等々に迅速な力強いご支援を頂き改めて心から厚くお礼申し上げます。被災漁業者受入については現在四名の方の受入が決まり、今後も鋭意対応して参る所存であります。

本日の総代会には、平成二十二年度決算・平成二十三年度事業計画等諸案件を上程しておりますので充分にご審議のうえご承認賜りますようお願いし開会のご挨拶と致します。

貸借対照表

■平成23年3月31日現在

(単位：円)

資 産		負債及び純資産	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
1 信用事業資産	38,934,473,073	1 信用事業負債	41,688,729,228
2 共済事業資産	3,395,729	2 共済事業負債	60,038,518
3 流動資産	2,941,538,121	3 流動負債	2,093,442,163
(1) 受入手形	391,000	(1) 経済事業未払金	1,821,088,258
(2) 経済事業未収金	2,118,637,030	(2) 経済事業雑負債	14,406,819
(3) 経済事業雑資産	141,686,880	(3) 未払法人税等	9,024,000
(4) 棚卸資産	845,255,256	(4) その他の流動負債	248,923,086
(5) その他の流動資産	179,091,581	4 固定負債	1,069,598,072
(6) 貸倒引当金	△ 343,523,626	(1) 長期借入金	299,301,992
4 固定資産	8,973,188,623	(2) 受入保証金	730,901,976
(1) 有形固定資産	5,147,616,073	(3) 出資預り金	39,394,104
減価償却資産	13,249,035,391	5 諸引当金	2,272,479,940
減価償却累計額	△ 10,284,941,441	(1) 賞与引当金	79,996,784
土地	2,182,515,023	(2) 退職給付引当金	2,160,199,824
建設仮勘定	1,007,100	(3) 役員退任慰労引当金	27,283,332
(2) 無形固定資産	6,396,549	(4) 遭難救助引当金	5,000,000
(3) 外部出資	3,270,137,824	6 再評価に係る繰延税金負債	21,677,272
系統出資	2,732,192,477	負債の部合計	47,205,965,193
系統外出資	511,212,343		
子会社等出資	26,733,004	(純資産の部)	
(4) 長期特定資産	6,681,370	1 出資金	3,311,050,000
(5) その他の固定資産	1,175,630,443	2 資本準備金	13,536,562
(6) 貸倒引当金	△ 633,273,636	3 利益剰余金	350,832,841
		(1) 利益準備金	131,943,449
5 繰延資産	638,463	(2) その他利益剰余金	218,889,392
		特別積立金	39,818,689
		当期末処分剰余金	179,070,703
		(うち当期剰余金)	(173,330,111)
		4 処分未済持分	△ 76,400,000
		組合員資本合計	3,599,019,403
		1 土地再評価差額金	48,249,413
		評価・換算差額等合計	48,249,413
		純資産の部合計	3,647,268,816
資産の部合計	50,853,234,009	負債及び純資産の部合計	50,853,234,009

※平成22年度 決算状況
平成22年度決算の概況は次のとおりです。
本組合事業にご協力賜りました組合員各位、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成22年度

決算状況

損益計算書

■平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
1 事業総利益	2,538,961,569
信用事業総利益	319,527,043
共済事業総利益	79,162,640
購買事業総利益	638,964,916
販売事業総利益	1,296,497,842
製氷冷凍事業総利益	75,196,433
加工事業総利益	4,862,214
利用事業総利益	2,562,256
漁業自営事業総利益	△ 2,804,220
漁場利用事業総利益	△ 55,611
指導事業取支差額	125,048,056
無線事業取支差額	0
2 事業管理費	2,507,046,299
(1) 人件費	1,761,707,912
(2) 旅費交通費	20,904,000
(3) 業務費	84,436,353
(4) 諸税負担金	69,325,435
(5) 施設費	334,737,054
(6) 減価償却費	206,473,428
(7) 雑費	29,462,117
事業利益	31,915,270
3 事業外収益	214,468,880
4 事業外費用	61,474,353
経常利益	184,909,797
5 特別利益	589,679,559
6 特別損失	592,235,245
税引前当期利益	182,354,111
法人税・住民税及び事業税	9,024,000
当期剰余金	173,330,111
前期繰越剰余金	5,740,592
当期末処分剰余金	179,070,703

事業計画

平成23年度の組合運営に当たっては、基本方針に基づき、「組織の融合一体化対策」「魚食普及・魚価向上・流通経費縮減対策」「経営財務基盤の確立強化」を重点推進事項として積極的に事業を推進していくものとする。

重点推進事項

1. 販売事業

- ① JF市場への組合員全出荷体制の確立に努める。
- ② 販売事業統括部を核とする各支所販売部門間の連携を強化する。
- ③ 組合員への市況等の情報周知と出荷指導に努める。
- ④ 魚食普及・魚価向上・流通経費縮減対策へ積極的に取り組む。

2. 購買事業

- ① 漁業経営セーフティネット構

築事業の積極活用を図る。

- ② 石油購買事業における物確保と安定供給に努める。
- ③ 魚函安定供給体制の確立を図る。
- ④ 在庫管理の徹底と取扱品目の見直し。

3. 信用事業

- ① 貯蓄推進委員会等との連携による貯金量420億円の達成を目指す。
- ② 信用事業リスク体制整備と自己資本比率の向上を図る。
- ③ 漁業信用保証業務との連携により、漁業経営改善のための必要な支援を行う。

4. 共済事業

- ① JF共済の『チョコー』は、万一の場合などを保障しながら貯蓄機能もあるJF共済を代表する長期の生命共済で、入院や手術、通院などお客様のニーズにあった保障が選択できる共済であり、万一の場合を一生涯にわたり保障する終身共済を主体に契約者を拡大し、『チョコー』の保有残高の拡大を目指す。

② JF共済の『くらし』は、貯蓄をしながら建物や家財などを火災や自然災害から守る総合的な補償で、満期時の満期共済金により増改築時にも役立つ共済であり、万一の自然災害の損害に対しても安心できる補償提供を目的に、加入者の拡大を目指

す。

5. その他の事業

- ① 冷凍冷蔵事業については、販売部門との連携を強化し、魚価の安定と向上に積極的に取り組むとともに、境港支所と連携し恵曇冷凍冷蔵庫の稼働率の向上を図る。
- ② 製氷事業については、境港製氷工場の稼働率の向上と安来製氷(株)の効率運用に努める。
- ③ 既存の加工施設の再点検・リニューアルにより新規活用を図るとともに、不採算事業の整理と新規事業の開拓に取り組む。
- ④ 「JFしまね漁業無線局」を有効に活用し、組合員への気象情報及び海上防炎情報、漁海況速報の提供による海難事故の未然防止と操業効率の向上に努め

る。

- ⑤ 指導事業については漁政対策活動として、水産基本政策や輸入水産物・TPP貿易自由化対策のほか、200海里水域対策、日韓協定・暫定水域民間協議対策、暫定水域・EEZにおける韓国漁船対策、竹島領土権確立と安全操業対策等を行い、漁業振興対策として、担い手・後継者育成対策、繁殖保護・漁場管理・資源管理型漁業の推進・営漁指導・生産、販売流通対策等を行う。





総代会で承認された賦課金の徴収につきましては、次のとおりです。

① 賦課金の金額

正組合員 年間3、000円
准組合員 年間2、000円

② 徴収期間及び徴収方法

平成23年8月31日までに本組合口座に口座振替又は振り込み等によって納入する。

JFしまね漁業無線局賦課金徴収については、次のとおりです。

① 賦課金の金額

区分	年額
漁業種別賦課額	
沖合底曳網(2500m以上)	216,000円
沖合底曳網(1500m以上)	108,000円
沖合底曳網(1000m以上)	100,000円
無線機種別賦課額	
27メガ DSB 1W	16,800円
27メガ DSB 25W	30,000円
40メガ DSB 5W	30,000円
40メガ DSB 5W(追加)	36,000円

② 徴収時期及び徴収方法

平成23年8月31日までに口座振替を原則に納入する。

平成23年度主要事業取扱計画

■平成23年4月1日から平成24年3月31日 (単位：千円)

部門	金額	備考
経	石油類 6,548,939	
	資材類 1,167,650	
	合計 7,716,589	
済	受託販売取扱高 22,461,641	
	買取販売 3,091,256	
事	合計 25,552,897	
	冷凍品販売高 2,002,539	
	保管料 178,614	
業	合計 2,181,153	
	製水事業 水供給高 709,686	
	加工事業 加工品販売高 156,490	
	受入加工料 5,070	
利用事業	受入利用料 212,357	
漁業自営事業	販売高 171,980	
経済事業総取扱高		36,706,222
信用事業	貯金 42,419,661	
	預け金 27,873,717	
	貸出金 8,038,247	
	有価証券 2,074,886	
共済事業	普通厚生共済(チヨコ) 45,500,000	
	長期共済保有高 生活総合共済(くらし) 14,400,000	
	合計 59,900,000	
	共水連元受契約に係るもの ねんきん 51,000	
短期共済保有高	乗組員厚生共済(ノリコ) 12,000,000	
	火災共済(カサイ) 23,000,000	
	合計 35,000,000	

平成23年度収支計画

■平成23年4月1日から平成24年3月31日 (単位：千円)

科目	金額
1. 事業総利益	2,600,169
〔信用事業総利益〕	323,256
〔共済事業総利益〕	78,467
〔購買事業総利益〕	639,236
〔販売事業総利益〕	1,168,587
〔買取販売事業総利益〕	132,567
〔冷凍冷蔵事業総利益〕	4,564
〔製水事業総利益〕	187,067
〔加工事業総利益〕	16,948
〔利用事業総利益〕	13,549
〔その他事業総利益〕	379
〔無線事業総利益〕	-4,827
〔指導事業総利益〕	40,376
事業収益計	16,795,915
事業直接費計	14,195,746
2. 事業管理費	2,394,927
(1) 人件費	1,695,520
(2) 旅費交通費	25,894
(3) 業務費	81,980
(4) 租税公課	49,161
(5) 負担金	19,310
(6) 施設費	325,431
(7) 減価償却費	175,052
(8) 雑費	22,579
事業利益	205,242
3. 事業外収益	86,902
4. 事業外費用	9,688
経常利益	282,456
5. 特別利益	605
6. 特別損失	21,614
税引前当期剰余金	261,447
法人税・住民税	9,024
当期剰余金	252,423



東日本大震災復興支援イベント開催

～「マグロでTUNAがる心と心」～




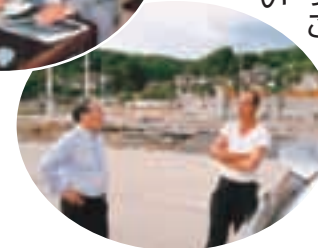
去る6月30日、東日本大震災による津波の影響で壊滅的な打撃を受けた東北地方への復興支援活動の一環としてJFしまねは、予てより水産物直接取引を展開している大手小売業イオンリテール（株）と連携して、被災された方々を励まし元気になってもらおうと、境産本マグロ50本を、宮城・岩手・福島3県のイオン15店舗に直送し、「マグロでTUNA（つな）がる心と心」と題した復興支援イベントを開催しました。

宮城県石巻市のイオン石巻店で開かれたイベントの開会セレモニーでは、JFしまね岸会長より、「遠く離れた島根の地から、


被災された方々や地域の復興を願う、ささやかなであるが支援の輪を広げてきた」「島根近海で獲れたマグロを食べて元気になり、一日も早くこの地が復旧・復興されることを願いながら、これからも出来る限りの支援をしていきたい」と挨拶。続いて、JF全漁連長屋常務、島根県農林水産部廣山次長から被災者へ向けた応援メッセージが伝えられたほか、本県隠岐の島のまき網船での再出発が決まった宮城県内の漁業者らが紹介されました。



マグロの解体ショーでは、重さ約50キの本マグロが用意され、その場で捌かれた刺身を来場者に無料で振る舞いながら、通常の半額から3分の1の値段で販売をしたところ、「新鮮なマグロを久しぶりに食べた」、「安価でマグロを購入することができてありがたい」などとても好評で、陳列されたマグロは数分で完売したとのことです。

イベント後、JFしまね岸会長らは2日間に渡り、被災地及び被災漁業者が実際に必要とする支援物資等をより充実させるための情報収集として、現地被災漁業者からの聞き取りや、宮城県漁協、岩手県漁連を訪問。今後の支援活動に生かすこととしています。



東北地方太平洋沖地震被害支援対策



平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震において、亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。



対策本部の設置

この度の大震災による被害が沿海部に集中していることから、多くの漁業者の方が犠牲となられ、太平洋沿岸の漁港・漁村・市場・水産加工場・漁船などの水産加工施設が甚大な損壊を被りました。

3月15日、JFしまねはこれら未曾有の事態に対し、被災地への政府・県・全漁連等の緊急的な支援に協力を図るとともに、水産分野の復興について必要な支援・要請活動を行うことを目的とし、水産系統団体とともに「JFしまねグループ東北地方太平洋沖地震被害支援対策本部」を設置しました。

義援募金運動

国を挙げて人命の救助と被災者の救援に取り組んでおりますが、特に岩手県・宮城県・福島県等は想像を絶する被害を受け、復興の長期化が憂慮される中、対策本部では被災漁業関係者を励まし、生活に係る経済的不安の解消やJF組織の復興等の一助とすべく義援募金運動を強力に展開しました。



「被害支援1日漁業操業」実施 ～とどけ島根の漁師の心～

3月22日、対策本部は義援募金運動の一環として、島根県小型底曳船協議会の協力申し出により「東北地方太平洋沖地震被害支援1日漁業操業」を実施しました。

これは協議会全会員である小型底びき網漁船53隻が一斉に出漁・操業し、帰港後、和江水産物地方卸売市場に全集荷（大田・仁摩支所所属船47隻）のうち指定買受人に販売（大社・平田・恵曇・西郷支所所属船6隻については別途翌朝販売）、燃油・魚箱等の所要経費については、JFしまねが負担すると共に販売手数料は徴収しないこととし、販売代金の全額を義援金とするものです。

漁獲物販売に先立ち、「被災された皆さんを激励する会」では漁業者の方をはじめ大勢の被災された皆様の1日も早い復興を願う熱いエールを送りました。全国に例を見ないこの取り組みの漁獲量は約14ト、漁獲金額は7,160,062円にのびりました。



被災地への激励会で挨拶をする岸会長



次々と競り落される漁獲物



同日、溝口島根県知事(左)に対し、1日操業の報告と義援金の一部を手渡す岸会長(中央)と永田専務(右)

対策本部に寄せられた義援金 総額 68,541,617円

趣旨にご賛同頂いた組合員の皆様をはじめ関係する多くの方々より多額な義援金を頂きました。ここに心よりお礼申し上げます。なお、皆様よりお預かりした義援金は、全漁連及び島根県を通じて、漁業者をはじめとする被災された方々に届けさせていただきます。

義援募金結果（6月30日現在）

（単位：円）

区分	金額	備考
〔漁業協同組合 JFしまね〕		
J F し ま ね	5,000,000	
組 合 員	25,607,331	正組合員：2,584名 准組合員：3,495名
業 種 別	19,896,062	まき網、かにかご、沖合底びき、小型底びき、定置網、小型いか釣り漁業
役 職 員	8,184,000	役員：21名 職員：419名
J F し ま ね 計	58,687,393	
〔水産系統団体〕		
島根県漁船保険組合	1,500,000	団体：1,000,000円 役職員：500,000円
全国合同漁業共済組合島根県事務所	610,000	団体：500,000円 役職員：110,000円
全国共済水産業協同組合連合会島根県事務所	1,130,000	団体：1,000,000円 役職員：130,000円
島根県漁業信用基金協会	520,000	団体：300,000円 役職員：220,000円
島根県漁港漁場協会	150,000	団体：50,000円 役職員：100,000円
島根県水産振興協会	195,000	団体：100,000円 役職員：95,000円
水産系統団体計	4,105,000	
〔一 般〕		
法 人	3,971,000	78社
そ の 他 団 体	688,658	20団体
個 人	859,768	167名
募 金 箱	239,798	
一 般 計	5,759,224	
合 計	68,551,617	

被災漁業者受入体制整備

沈没や全壊、流出など多数の漁船や住居に壊滅的な被害が生じ、たくさんの漁業者やそのご家族が働く場や住まいを失くされた事態を受け、地震被害支援対策活動の一環として、被災漁業者を本県各漁業に受入れて支援をしていくこととし、本組合所属のまき網船、沖合底曳網船、かにかご船を中心に15経営体より35名の被災漁業者を受入れる方針を固めました。

対策本部では、被災漁業者の住居の確保や、就業準備並びに就業に当たっての技術習得研修等の支援をまとめた要望書を島根県知事に提出し、受入体制の整備を行いました。被災漁業者を対象とした受入支援の動きは、全漁連を通じて各地で実施されています。



溝口島根県知事(左)へ要望書を手渡す岸会長(右)

漁の聲

第9回

安達 一守さん 59歳（Fしまね恵曇支所所属）

古くからの漁師町である松江市鹿島町恵曇。底曳網や定置網、19ト型イカ釣や一本釣をはじめ、県内のまき網船も水揚げをする漁業基地としてにぎわいを見せる。今回は、漁師歴44年という大ベテランの安達一守さん（59歳）に浜の声を聞いた。

迷わず漁師の道へ

今年で59歳になる安達さんは漁師歴44年目を迎える大ベテラン。中学を卒業する頃には、既に船に乗る意思を固めていたという。叔父さんの影響もあり、卒業後直ぐに山口県下関の沖合底曳網船に乗船し修行を積んだ。

半年以上は「船上生活」だったという沖底船では、毎日が地獄だったという。「あの頃は漁続きで、毎日がヘトヘトだったよ。帰りたくても帰れんしね。」と、ベーリング海や中国山東沖など、遠洋での辛かった経験や貴重な体験を話してくれた。

人一倍負けず嫌いな性格は

今でも変わらない

沖底船に乗って15年が経過し、既に機関長として活躍していた頃、地元恵曇のカニカゴ船から声

がかかり帰郷。「後にも先にも、あの頃が一番儲かったなあ・・・。」と、全盛期だった当時を懐かしみながらも、「体も船もかなり無理をしようたよ。」と、水揚げはもちろん、人一倍負けず嫌いな性格は今でも変わらないという。

長年のイカ釣漁から

小型底曳網漁へ転換

30歳半ばを過ぎた頃、目標としていたイカ釣船を購入し独立。15トの木船でスタートし、その後島根県内では初となる19ト型に代船し、全国各地へスルメイカの群を追ったという。「毎日海に出ていると、ほんといろんなことがあったよ。」と、これまでの体験や操業を振り返りながら、

「巡視船にはかなりお世話になったけどね・・・良い事も悪い事も」と笑いながらに一部始終を話してくれた。

十数年のイカ釣生活から、現在の小型底曳網漁へ転換して、今年で6年目を迎えるという安達さん。水揚げの減少や魚価安もさることながら、やはり燃油の高騰が一番の転換理由だったという。

イカ釣時代から、小型底曳きにはかなり興味を持っていたことから、県外出漁の合間には、山形や秋田、青森の小底船に乗船させてもらい、独自の操業方法を勉強したという安達さん。今では自身も船を改造し、その方法を取入れている。

「体力を使うけど底曳きは面白いよ。イカ釣と違って漁獲ゼロが無いけんね。」と、底曳きの魅力を教えてくれた。

休漁期間中は

「すくい網漁」に専念

まだまだ頑張るよ

底曳きが休漁期となる6月～8月



の間は、イワシの「すくい網」に精を出す安達さんの趣味は、専ら「船」のこと。「安全で効率良く操業せんと体がもたんしね。」という安達さんは、中古の船具や漁具、使えそうな部品を探してきては操業がし易いように自ら分解・溶接を繰り返し船に取付けていくという。「とにかく



使える物は何でも使う。」という安達さん。ブリッジ上に設置してある『反射板』を指差して、「あれ、網に入ってきたやつ・・・いいでしょう。」と満面の笑みで自慢げに話してくれた。

「今はとにかく水揚げを伸ばすことが一番の目標。まだまだ頑張るよ。」という安達さんの、とても話好きで明るい人柄と、前向きで研究熱心な「根っからの漁師」を感じることができた。

作業中にも係わらず、終始気さくに取財に応じて頂いた安達さんへの場を借りてお礼申し上げます。



JFしまね 信用部からのお知らせ

JFマリンバンクしまねでは、日頃のご愛顧に感謝いたしまして、平成二十三年六月一日から平成二十四年四月二十七日までの間、金利上乘せキャンペーン「JFしまねファーストプレミアム定期貯金」を取り扱っております。

当商品は、JFしまねの窓口で年金をお受取りになつておられる方やこれから年金をJFしまねの窓口でお受取りになられる方を対象とした商品で、JFしまね年金友の会「ほっと倶楽部」で実施している会員様限定の金利優遇定期貯金「ほっとプレミアム」へと繋がる商品です。

他金融機関にてお預けされて満期を迎える貯金をお持ちの方、ボーナスや特別な収入を得た方、退職を迎え退職金を受け取られる方など、いつ使うかわからない、使い道がまだ決まっていない。そんなまとまったゆとり資金を、この特別な機会に安全・確実に増やしてみませんか？

これから始まる、
素敵な日々のお手伝い。

**JFしまね
ファースト
First Premium
プレミアム
定期貯金**

取組期間：平成23年 平成24年
6月1日米～4月27日金

店頭金利
+
年**0.55%**

「JFしまねファーストプレミアム定期貯金」のご案内

キャンペーン金利

お申し込みと同時に、年金受給口座をJFしまねで新たにご指定、またはご予約、もしくは他行からご変更いただいた場合

スーパ一定期：店頭金利+年**0.45%**
スーパ一定期 300：店頭金利+年**0.45%**
大口定期：店頭金利+年**0.55%**

さらに、満期後当商品は JF しまね年金友の会会員様限定の金利優遇定期貯金「ほっとプレミアム」にお預けいれが可能です。

また、お申し込みと同時に年金受給口座をご指定等されなかった場合でも定期貯金の特別金利として、お預かり貯金別にお取組み時の店頭金利に上乗せを設定いたします。

商品内容

- ◆対象者…個人の方
- ◆対照金額…新規取組
百万円以上
- ◆お預入期間…3年

詳しくは

JFしまね信用窓口
までお尋ねください。
心よりお待ちしております。

浜の一品

～ぼべ御飯～



し ね び

[材料4人分]

- ぼべ貝・・・400グラム
- 米・・・・・・・・・・3合
- 醤油・・・・・・・・・・2杯
- お酒・・・・・・・・・・1杯
- 砂糖・・・・・・・・・・小さじ 1杯
- 味の素・・・・・・・・・・少々

ぼべ貝

[作り方]

- ①ぼべ貝を洗います。(小石や砂が付いているのご十分に洗い流す。)
- ②鍋に湯を沸かし貝を塩茹でします。(茹でる時の水量は貝の量によって調整する。)
※茹で終わった汁(煮汁)は後で米と一緒に炊くので捨てずに置いておく。
- ③茹で終わったらぼべ貝の身を取り出し再度洗い流します。(十分に洗い流す。)
- ④研いだお米に、ぼべ貝、貝の煮汁、醤油、お酒、砂糖、味の素を入れていつもの水量で炊きます。

今回は、「ぼべ御飯」を紹介します。この貝は、カサガイ(ベッコウガサガイやヨメガカサガイ)の仲間で、島根県では、ボベ貝とかベベ貝と呼ばれており、波打ち際の岩場にペタペタとはり付いているため、わりと簡単に採ることができます。

磯の香りや独特な風味、程よい食感を味わうことのできる浜の一品です。



JFしまね
久手出張所所属
森山敬子さん



「満船」で入港するまき網運搬船

6月から8月がシーズンであった山陰沖でのマグロ漁では、地元船をはじめ、青森、東京、石川、鳥取、長崎船籍の大型まき網船による好調な水揚げが続きました。

10月に入ると、地元まき網船を中心に、ウルメイワシ、マイワシ、サバ、アジを主体とした豊漁が続く中、数年ぶりとなる「1日1、500ト超」を記録するなど、今後の秋漁へ更なる期待が高まります。



好調な水揚げが続いたマグロ漁

「まき網漁 好調続く」

浜の出来事



温かい真心に感謝

【募金・香典返し】

※平成23年1月から平成23年8月20日までにご寄付頂いた方々のご芳名を掲載し、厚くお礼申し上げます。

- 江木 修一
- 田村 光由
- 浜崎 眞也
- 八谷 秀雄
- 旧美保関中央漁協女性部
- 鳥井漁協婦人部



◆皆様からのご意見やご感想、ひとこと随想、また漁村に関する話題などお待ちしております。

〒690-0007 島根県松江市御手船場町575番地

漁業協同組合 JFしまね「明るい漁村」係

※E-mail: shidou@jf-shimane.or.jpまたは、

FAX: 0852-27-6130でもお寄せ下さい。

◆本誌のバックナンバー(pdf形式)をホームページで公開しています。

<JFしまねWEBサイト>

<http://www.jf-shimane.or.jp/akarui.html>

編集後記

今号から「浜の一品」と題して、県内各浜で親しまれている魚介料理を紹介するコーナーを設けました。地元で獲れる魚介を使った簡単料理や定番料理、また、昔ながらの伝統料理やオリジナル料理など、「地元ならでわ」の一品を毎回紹介していけたらと思っています。各浜皆様からのお勧めの「浜の一品」には是非ご期待下さい。(N)